

孔子

孔子(こうし、ピン音: Kǒng zǐ、ウェード式: K'ung-tzu、紀元前 552 年10月9日-紀元前 479 年3月9日)は、春秋時代の中国の思想家、哲学者。儒家の始祖。氏は孔、諱は丘、字は仲尼(ちゅうじ)。孔子とは尊称である(子は先生という意味)。ヨーロッパではラテン語化された"Confucius"(孔夫子の音訳、夫子は先生への尊称)の名で知られている。

実力主義が横行し身分制秩序が解体されつつあった周末、魯国に生まれ、周初への復古を理想として身分制秩序の再編と仁道政治を掲げた。孔子の弟子たちは孔子の思想を奉じて教団を作り、戦国時代、儒家となって諸子百家の一家をなした。孔子と弟子たちの語録は『論語』にまとめられた。

3500 人の弟子がおり、特に「身の六芸に通じる者」として七十子がいた*[1]。そのうち特に優れた高弟は孔門十哲と呼ばれ、その才能ごとに四科に分けられている。すなわち、徳行に顔回・閔子騫・冉伯牛・仲弓、言語に宰我・子貢、政事に冉有・子路、文学(学問のこと)に子游・子夏である。その他、孝の実践で知られ、『孝経』の作者とされる曾参(曾子)がおり、その弟子には孔子の孫で『中庸』の作者とされる子思がいる。

孔子の死後、儒家は八派に分かれた。その中で孟軻(孟子)は性善説を唱え、孔子が最高の徳目とした仁に加え、実践が可能とされる徳目義の思想を主張し、荀況(荀子)は性悪説を唱えて礼治主義を主張した。『詩』『書』『礼』『楽』『易』『春秋』といった周の書物を六経として儒家の経典とし、その儒家的な解釈学の立場から『礼記』や『易伝』『春秋左氏伝』『春秋公羊伝』『春秋穀梁伝』といった注釈書や論文集である伝が整理された(完成は漢代)。

孔子の死後、孟子・荀子といった後継者を出したが、戦国から漢初期にかけてはあまり勢力が振るわなかった。しかし前漢・後漢を通じた中で徐々に勢力を伸ばしていき、国教化された。以後、時代により高下はあるものの儒家は中国思想の根幹たる存在となった。

20 世紀、1910 年代の新文化運動では、民主主義と科学を普及させる観点から、孔子及び儒家への批判が雑誌『新青年』などで展開され、1949 年に成立した中華人民共和国では、1960 年代後半から 1970 年代前半の文化大革命において、毛沢東とその部下達は批林批孔運動という孔子と林彪を結びつけて批判する運動を展開。孔子は封建主義を広めた中国史の悪人とされ、林彪はその教えを現代に復古させようと言う現代の悪人であるとされた。近年、中国では、中国共産党が新儒教主義

を提唱し(儒家参照)、また、「孔子」がブランド名として活用されている(孔子鳥、孔子学院を参照。)

1 時代背景

1.1 周公旦と礼学

孔子の生まれた魯(紀元前 1055 年 - 紀元前 249 年)は、周公旦を開祖とする王朝国家で、周公旦は周王朝を開いた武王の弟である。周公旦は、武王の子である成王を補佐し、建国直後の周を安定させた。周公旦は、曲阜に封じられて、魯公となるが魯に向かうことはなく、嫡子の伯禽に赴かせてその支配を委ね、自らは中央で政治に当たっていた。

周公旦は、周王朝の礼制を定めたとされ、礼学の基礎を築き、周代の儀式・儀礼について『周礼』『儀礼』を著したとされる。旦の時代から約 500 年後の春秋時代に生まれた孔子は、魯の建国者周公旦を理想の聖人と崇めた。孔子は、常に周公旦のことを夢に見続けるほどに敬慕し、ある時に夢に旦のことを見なかったので「年を取った」と嘆いたと言うほどであった。

魯では周公旦の伝統を受け継ぎ、古い礼制が残っていた。この古い礼制をまとめ上げ、儒家として後代に伝えていったのが、孔子一門である。孔子が儒家を創出した背景には、魯に残る伝統文化があった。

1.2 魯国の状況

春秋時代に入ってから魯国は、晋・斉・楚といった周辺の大國に翻弄される小國となっていた。国内では、魯公室の分家である三桓氏が政治の実権を握り、寡頭政治を行っていた。三桓氏とは、孟孫氏(仲孫氏)・叔孫氏・季孫氏のことをいう。魯の第 15 代君主桓公の子に生まれた 3 兄弟の慶父・叔牙・季友は第 16 代莊公の重臣となり、慶父から孟孫氏(仲孫氏)、叔牙から叔孫氏、季友から季孫氏に分かれ代々魯の実権を握ってきた。特に権力を極めたのが季孫氏で、代々司徒の役職に就き、叔孫氏が司馬、孟孫氏(仲孫氏)が司空を務めた。

孔子の生まれた当時は襄公(紀元前 572 年-紀元前 542 年)の時代であった。紀元前 562 年には季孫氏の季孫宿(季武子)の発議によってそれまで

上下二軍組織だった魯国軍を上中下の三軍組織に再編、のちに三桓氏は軍事を独占するようになる*[2]。

2 生涯

2.1 出自

紀元前 552 年（一説には 551 年）に、魯国昌平郷辺境の陬邑、現在の山東省曲阜（きょくふ）市で陬邑大夫の次男として生まれた。父は既に 70 歳を超えていた叔梁紇（しゅくりょうこつ）、母は身分の低い 16 歳の巫女であった顔徴在（がんちょうざい）とされるが、『論語』の中には詳細な記述がない。父は三桓氏のうち比較的弱い孟孫氏に仕える軍人戦士で、たびたびの戦闘で武勲をたてていた*[3]。沈着な判断をし、また腕力に優れたと伝わる*[4]。また『史記』には、叔梁紇が顔氏の娘との不正規な関係から孔子を生んだとも、尼丘という山に禱って孔子を授かったとも記されている*[5]。このように出生に関しては諸説あるものの、いずれにしても決して貴い身分では無かったようである。「顔徴在は尼山にある巫祠の巫女で、顔氏の巫児である」と史記は記す。貝塚茂樹は、孔子は私生児ではなかったが嫡子ではなく庶子であったとしたうえで、後代の儒学者が偉人が処女懐胎で生まれる神話に基づいて脚色しようとするのに対して、合理的な司馬遷の記述の方が不敬とみえても信頼できるとしている*[6]。孔子はのちに「吾少（わか）くして賤しかりき、故に鄙事に多能なり」と語っている*[7]。

幼くして両親を失い、孤児として育ちながらも苦学して礼学を修めた。幼少期には、母の顔徴在の影響を受けて、葬式ごっこをして遊んでいたという。しかし、成長してから、どのようにして礼学を学んだのかは分かっていない。そのためか、礼学の大家を名乗って国祖・周公旦を祭る大廟に入ったときには、逆にあれは何か、これは何かと聞きまわるなど、知識にあやふやな面も見せているが、細かく確認することこそこれが礼であるとの説もある。また、老子に師事して教えを受けたという説もある。

弟子の子貢はのちに「夫子はいずくにか学ばざらん。しかも何の常の師かあらん。（先生はどこでも誰にでも学ばれた。誰か特定の師について学問されたのではない）」（子張篇）と答えたといわれ*[8]、孔子は地方の小学に学び、地方の郷党に学んだ。特定の正規の有名な学校で学んだわけではないという意味で独学であった*[9]。

2.2 青年期

紀元前 542 年 6 月、襄公が薨去すると、太子の魯公野が即位するが同年の 9 月、野は突然死したため、襄公と齊帰の間の子である囿が昭公（?-紀元

前 510 年）として君主に即位した。

紀元前 537 年に季孫氏は一軍を廃止するとともに私物化し、さらに三桓氏が魯国軍を三分し私軍化し、三家による独裁体制が実現した。この前年の紀元前 538 年に 15 歳の孔丘が学に志している。

紀元前 534 年、19 歳のときに宋の圻官（けんかん）氏と結婚する*[10]。翌年、子の鯉（り）（字は伯魚）が誕生。

紀元前 525 年、28 歳の孔子はこの頃までに魯に仕官し委吏、乗田となった*[11]。

紀元前 517 年、孔子が 36 歳のときに第 23 代君主昭公による先代君主襄公を祭る場で、宮廷の礼制が衰え、舞楽も不備で舞人はわずか二名であった。他方、季氏の祭りの際には 64 人の舞人が舞った。これを見て孔子は憤慨する*[12]。同年 9 月、昭公が季孫氏の季孫意如を攻めるが、クーデターは失敗し、齊へ国外追放され、昭公はそこで一生を終える。孔子も昭公のあとを追って齊に亡命する。魯に帰国したのは翌年とも 7 年後ともいわれる。魯は紀元前 509 年に定公が第 24 代君主に就任するまで空位時代であった。孔子は齊の首都臨淄で肉の味がわからないほどに音楽に感銘を受ける。

紀元前 505 年、季孫氏当主の季孫斯（季桓子）に仕えていた陽虎（陽貨）が反旗を翻して魯の実権を握る。同年、陽虎は、孔子を召抱えようとし、また孔子も陽虎に仕えようとしたが、それは実現しなかった*[13]。なお陽虎と孔子は二人とも巨漢で容貌が似ており、孔子は陽虎と見間違えられ、危難に遭ったことがある。陽虎は紀元前 502 年に叔孫氏・孟孫氏（仲孫氏）の家臣を従えて、三桓氏の当主たちを追放する反乱を起こして箠城戦を繰り広げたが、三桓氏連合軍に敗れ、魯の隣国である齊に追放され、その後、宋・晋を転々とし、紀元前 501 年に晋の趙鞅に召抱えられた。

2.3 大司寇時代

紀元前 501 年、孔子 52 歳のとき定公によって中都の宰に取り立てられた*[14]。その翌年の紀元前 500 年春、定公は齊の景公と和議をし、「夾谷の会」とよばれる会見を行う。このとき齊側から申し出た舞楽隊は矛や太刀を小道具で持っていたので、孔子は舞楽隊の手足を切らせた。「春秋伝」によれば、これは有名な名相晏子による計略で、それを孔子が見破ったといわれる*[15]。景公はおののき、義において魯に及ばないことを知った*[16]。この功績で孔子は最高裁判官である大司寇に就任し、かつ外交官にもなった。孔子は晋との長年の「北方同盟」から脱退した。三桓氏がこれまで晋の権力を背景に魯の君主に圧迫することを繰り返してきたからで、それを禁絶するためだった*[17]。

紀元前 498 年、孔子は弟子のなかで武力にすぐれた子路を季氏に推薦したうえで、三桓氏の根城を壊滅する計画を実行に移し、定公にすすめて軍を進めたが、落とせなかった*[18]。

2.4 亡命から晩年まで

翌年の紀元前497年に弟子とともに諸国巡遊の旅に出た。国政に失望したとも、三桓氏の反撃ともいわれる。衛に赴き、ついで陳に赴く。

紀元前49年、弟子を顔回以外全員取った少正卯を暗殺する。

紀元前494年には魯で哀公が第27代君主に就任する。前487年に魯は隣国の呉に攻められるも奮戦し、和解した。その後、齊に攻められ敗北した。前485年には呉と共に齊へ攻め込み大勝した。翌年の前484年にはまた齊に攻められた。

紀元前484年、孔子は69歳の時に13年の亡命生活を経て魯に帰国し、死去するまで詩書など古典研究の整理を行なう。この年、子の鯉が50歳で死んでいる。

翌前483年、孔子は齊の簡公を討伐するよう哀公に進軍を勧めるが、実現しなかった。その3年後の前481年、齊の簡公が宰相の田恒(陳恒)に弑殺されたのを受けて、孔子が再び齊への進軍を3度も勧めるが、哀公は聞き入れなかった。

孔子の作と伝えられる歴史書『春秋』は哀公14年(紀元前481年)に魯の西の大野沢(だいやたく)で狩りが行われた際、叔孫氏に仕える御者が、麒麟を捉えたという記事(獲麟)で終了する。このことから後の儒学者は、孔子は、それが太平の世に現れるという聖獣「麒麟」であるということに気付いて衝撃を受けた。太平とは縁遠い時代に本来出てきてはならない麒麟が現れた上、捕まえた人々がその神聖なはずの姿を不気味だとして恐れをなすという異常事態に、孔子は自分が今までやってきたことは何だったのかというやり切れなさから、自分が整理を続けてきた魯の歴史記録の最後にこの記事を書いて打ち切ったとも解釈している。ここから「獲麟」は物事の終わりや絶筆のことを指すようになった。

紀元前479年に孔子は74歳で没し曲阜の城北の泗水のほとりに葬られた。前漢の史家司馬遷は、その功績を王に値すると評価し、「孔子世家」とその弟子たちの伝記「仲尼弟子列伝」を著した。儒教では「素王」(そおう、無位の王の意)と呼ぶことも多い。

2.5 孔子死後の魯

孔子の死後、前471年に哀公は晋と同じく齊へ指揮官として進軍する。さらに前468年に三桓氏の武力討伐を試みるも三桓氏に屈し、衛や鄆を転々とした後に越へ国外追放され、前467年にその地で没した。

孔伯魚の息子で孔子の孫である子思(紀元前483年?-紀元前402年?)は幼くして父と祖父を失ったため孔子との面識はわずかだが、曾子の教えを受け儒家となり、魯の第30代君主穆公(?-紀元前

383年)に仕えた。穆公は在位期間中に改革を施行し、哀公・悼公・元公の3代にわたる三桓氏の専制の問題から脱却し、魯公室の権威を確立して、隣国の齊とのあいだで数度の戦争を展開した。孟子は子思の学派から儒学を学んでいる。

のち、国としての魯は衰退し、紀元前249年に楚に併合され、滅亡した。

3 思想

『仁(人間愛)と礼(規範)に基づく理想社会の実現』(論語)孔子はそれまでのシャーマニズムのような原始儒教(ただし「儒教」という呼称の成立は後世)を体系化し、一つの道徳・思想に昇華させた(白川静説)。その根本義は「仁」であり、仁が様々な場面において貫徹されることにより、道徳が保たれると説いた。しかし、その根底には中国伝統の祖先崇拜があるため、儒教は仁という人道の側面と礼という家父長制を軸とする身分制度の双方を持つにいたった。

孔子は自らの思想を国政の場で実践することを望んだが、ほとんどその機会に恵まれなかった。孔子は優れた能力と魅力を持ちながら、世の乱れの原因を社会や国際関係における構造やシステムの変化ではなく個々の権力者の資質に求めたために、現実的な政治感覚や社会性の欠如を招いたとする見方がある*[19]。孔子の唱える、体制への批判を主とする意見は、支配者が交代する度に聞き入れられなくなり、晩年はその都度失望して支配者の元を去ることを繰り返した。それどころか、孔子の思想通り、最愛の弟子の顔回は赤貧を貫いて死に、理解者である弟子の子路は謀反の際に主君を守って惨殺され、すっかり失望した孔子は不遇の末路を迎えた。

3.1 封号

孔子の没後、孔子に対して時の為政者から様々な封号が贈られた。

4 人物

身長は9尺6寸、216cmの長身(春秋時代の1尺=22.5cmとして計算)で、世に「長人」と呼ばれたという(『史記』孔子世家)。容貌は上半身長く、下半身短く、背中曲がり、耳は後ろのほうに付いていたという(『莊子』外物篇)。

飯は十分に精白されている米や、膾(冷肉を細く切った物)などを好み、時間が経ち蒸れや変色、悪臭がする飯や魚や肉、煮込み過ぎ型崩れした物は食べなかった。また季節外れの物、切り口の雑な食べ物、適切な味付けがされていない物も食べなかった。祭祀で頂いた肉は当日中に食べる。自分



湯島聖堂にある孔子像

の家に供えた肉は三日以上は持ち越さず、三日を過ぎれば食べないほか、食べる時には話さない等、飲食に関して強いこだわりを持っていた*[21]。

5 子路の「醢」

弟子の子路が衛国の大夫である孔悝の荘園の行政官になっていたころ、衛国に父子の王位争いが起こり、子路は騒動にまきこまれて、殺された。子路の遺体は細かく切りきざまれ、《醢》(遺体を塩漬けにして長期間晒しものにする刑罰)にされたという挿話が『礼記』『孔子家語』『東周列国志』『莊子』などに記されている。孔子は深く悲しみ、『礼記』の記述によると、最後に家にあった「醢」(肉の塩漬け)を捨てさせたとある*[22]。

- 『礼記』檀弓上の記述では以下の通りである。

檀弓上：孔子哭子路於中庭。有人弔者，而夫子拜之。既哭，進使者而問故。使者曰：“醢之矣。”遂命覆醢。*[23]

- 『莊子』盜跖篇の記述では以下の通りである。

子以甘辭囑子路而使從之，使子路去其危冠，解其長劍，而受教於子，天下皆曰‘孔丘能止暴禁非’。其卒之也，子路欲

殺衛君而事不成，身蒞於衛東門之上，是子教之不至也。*[24]

- 『孔子家語』にも同じ逸話がある。

子路與子羔仕於衛。衛有蒯聵之難。孔子在魯聞之、曰、柴也其來。由也死矣。既而衛使至。曰、子路死焉。夫子哭之於中庭。有人弔者、而夫子拜之。已哭。進使者而問故。使者曰、醢之矣。遂令左右皆覆醢。曰、吾何忍食此。*[25]

6 子孫

孔子の子孫で著名な人物には子思(孔子の孫)、孔安国(11世孫)、孔融(20世孫)などがある。孔子の子孫と称する者は数多く、直系でなければ現在400万人を越すという。

孔子に敬意を表するため、孔子その人に様々な封号が贈られたのは前述の通りであるが、その子孫にも厚い待遇が為された。まず前漢の皇帝の中でも特に儒教に傾倒した元帝が、子孫に当たる孔覇に「褒成君」という称号を与えた。また、次の成帝の時、匡衡と梅福の建言により、宋の君主の末裔を押しつけ、孔子の子孫である孔何齊が殷王の末裔を礼遇する地位である「殷紹嘉侯」に封じられた。続いて平帝も孔均を「褒成侯」として厚遇した。その後、時代を下って宋の皇帝仁宗は1055年、第46代孔宗願に「衍聖公」という称号を授与した。以後「衍聖公」の名は清朝まで変わることなく受け継がれた。しかも「衍聖公」の待遇は次第に良くなり、それまで三品官であったのを明代には一品官に格上げされた。これは名目的とはいえず、官僚機構の首位となったことを意味する。

孔子後裔に対する厚遇とは、単に称号にとどまるものではない。たとえば「褒成君」孔覇は食邑800戸を与えられ、「褒成侯」孔均も2000戸を下賜されている。食邑とは、簡単に言えば知行所にあたり、この財政基盤によって孔子の祭祀を絶やすことなく子孫が行うことができるようにするために与えられたのである。儒教の国教化はこのように孔子の子孫に手厚い保護を与え、繁栄を約束したといえる。

山東省曲阜市には孔廟、孔林、そして孔府(旧称・衍聖公府)がある。(いわゆる三孔)。第46代孔宗願から、第77代孔徳成に至るまで直系の子孫は孔府に住んでいた。なお、孔徳成は中華人民共和国の成立に伴い、1949年に台湾へ移住している。中華人民共和国の外交官孔泉は、孔子の76代目の子孫といわれる。

7 系譜

孔子の子孫一族に伝承する家系図は「孔子世家譜」である。孔子以降、現在に至るまで83代の系譜を取めたこの家系図はギネス・ワールド・レコーズに「世界一長い家系図」として認定されている。なおこの孔子世家譜は2009年現在までに5回の大改訂が行われている。第1回は明時代(1621年-1627年)、第2回と第3回は清時代(1662年-1723年)、(1736年-1795年)、第4回は中華民国時代(1930年-1937年)、第5回は中華人民共和国時代(1998年-2009年)である。第5回目の大改訂については、2008年12月31日に資料収集が終了*[26]。2009年9月24日に完成した*[27]。今回の孔子世家譜には初めて中国国外及び女性の子孫も収録され*[28]、200万人以上の収録がなされた*[27]。

8 伝記(学術)

- 金谷治 『孔子』講談社学術文庫、ISBN 4061589350
- 貝塚茂樹 『孔子』岩波新書 青版、1951年、ISBN 4004130441
- 白川静 『孔子伝』中公文庫、ISBN 4122041600
- 和辻哲郎 『孔子』岩波文庫、ISBN 400331445X
- 加地伸行 『孔子時を越えて新しく』集英社文庫、1991年
- 蜂屋邦夫 『孔子中国の知的源流』講談社現代新書、1997年
- ハーバート・フィンガレット*[29] 『孔子聖としての世俗者』山本和人訳、平凡社ライブラリー、1994年
- H・G・クリール 『孔子その人とその伝説』田島道治訳、岩波書店、初版1961年、復刊1993年

9 孔子を題材にした作品

小説

- 下村湖人 『論語物語』講談社学術文庫、ISBN 4061584936
- 中島敦 『弟子』岩波、角川、新潮の各文庫ほか
- 井上靖 『孔子』新潮文庫、ISBN 4101063362
- 緑川佑介 『孔子の一生と論語』明治書院、新装版2007年、ISBN 462568403X



孔子像

- 酒見賢一 『陋巷に在り』新潮文庫 全13巻
- 李長之 『人間孔子』守屋洋訳、徳間文庫、1989年
- 銭寧 『聖人・孔子の生涯』松岡亮訳、東洋書院、2005年
- 丁寅生 『孔子物語』孔健・久米旺生訳、徳間文庫、2008年
- 三宅昭 『小説論語物語』三宅参衛監修鶴書院、2009年

映画

- 『孔子の教え』(監督：フーメイ、主演：チョウ・ユンファ、2009年、中国)

テレビドラマ

- 『孔子』(主演：チュウ・ガンリーヤオ、2011年、中国)
- 『恕の人-孔子伝-』(主演：ウィンストン・チャオ、2012年、中国)

漫画

- 鄭問 『東周英雄伝』 講談社漫画文庫 全3巻、1995年
- 諸星大二郎 『孔子暗黒伝』 新版集英社文庫 コミック全1巻、1996年
- 猪原賽 原作、李志清 画 『孔子と論語』 メディアファクトリー コミック全3巻、2008年

アニメ

- 『孔子傳』 (NHK アニメーション、1995年、監督：出崎統、原作は上記『東周英雄伝』)

コメディ

- 『哲学者サッカー』 - ギリシア哲学者チームと、ドイツ近代哲学者チームが、サッカーの試合をするというコメディ。孔子は主審を務めるという設定で、「論語には自由意志が無い」と嘯み付いて来たニーチェ にイエローカードを渡す。

10 脚注

- [1] 『史記』 孔子世家
- [2] 貝塚茂樹 『孔子』 岩波新書、1951年、42-3頁
- [3] 貝塚茂樹 『孔子』 岩波新書、1951年、43頁
- [4] 貝塚茂樹 『孔子』 岩波新書、1951年、57頁
- [5] 貝塚茂樹 『孔子』 岩波新書、1951年、51頁
- [6] 貝塚茂樹 『孔子』 岩波新書、1951年、52頁
- [7] 『論語』 子罕編。貝塚、62頁。
- [8] 貝塚茂樹 『孔子』 岩波新書、1951年、66頁
- [9] 貝塚茂樹 『孔子』 岩波新書、1951年
- [10] 「家語」
- [11] 「孟子」「史記」
- [12] 貝塚茂樹 『孔子』 岩波新書、1951年、146頁
- [13] 論語 陽貨第十七
- [14] 『史記』 孔子世家
- [15] 貝塚茂樹 『孔子』 岩波新書、1951年、171頁
- [16] 『史記』 孔子世家、左伝
- [17] 貝塚茂樹 『孔子』 岩波新書、1951年、171頁
- [18] 貝塚茂樹 『孔子』 岩波新書、1951年、173頁
- [19] 吉田亮太 『春秋戦国政治外交史』 三恵社、2014年、P58-61

[20] ※この一覧表は、江連隆『論語と孔子の事典』(大修館書店、1996年)を参照し作成

- [21] 論語：郷党第十八
- [22] 評論家の黄文雄はこの「醢」を「人肉の塩漬け」と解釈し、そこから転じて「孔子は人肉を食していた」という主張をしている。しかし、「醢」とは単に「肉の塩漬け」のことであり、混同が見られる。「黄文雄(評論家)#中国の食人文化の主張について」、「孔子が人肉を食った?」なども参照。桑原隲藏「支那人間に於ける食人肉の風習」の子路の醢についての記述でも、孔子人肉食説は言及されていない。
- [23] 『礼記』「檀弓上」《檀弓上》
- [24] 『莊子』盗跖篇《盗跖》
- [25] 宇野精一訳(翻訳は尼子昭彦、宇野茂彦)『孔子家語』「曲礼子夏問」明治書院、1996年10月10日、ISBN 4-625-57053-0
- [26] 孔子の子孫200万人超に、「孔子家系図」9月に出版—中国、エキサイトニュース、2009年1月3日。
- [27] 孔子の子孫は200万人…家系図の大改訂で女性含め認定、サーチナ、2009年9月24日。
- [28] 孔子の家系図改訂、子孫は200万人を超える、AFP BB News、2008年2月18日。
- [29] 新書版とクーリルの著作以外は、初版単行本があり、和辻・貝塚・白川は著作集に所収。

11 関連項目

- 論語
- 儒教
- 伝
- 春秋
- 礼記
- 四書
- 五経
- 四書五経
- 中庸
- 大学(書物)
- 獲麟
- 孔子廟/文宣王廟/宣聖廟/文廟
- 湯島聖堂
- 七十子
- 孔門十哲

- 二十四孝
- 考証学
- 孔健
- 儒学者一覧
- 思想
 - 思想家 - 思想家一覧
- 孔子鳥
- 諸子百家
- 万世一系

12 外部リンク

- Web 漢文大系 - 論語
- 《論語》白文
- 2007 年山東省曲阜で発見された孔氏族譜
-
- 「Confucius」 - インターネット哲学百科事典にある「孔子」についての項目。(英語)
-
- 「Confucius」 - スタンフォード哲学百科事典にある「孔子」についての項目。(英語)